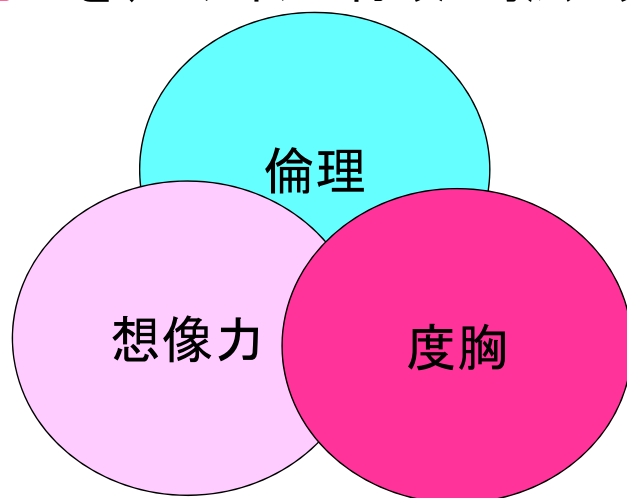


現場に学ぶ医療福祉倫理
前例を超える、前例を創る
～当事者の思いを、メディア・行政・司法・政治で実現する～



福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット
志の縁結び係&小間使い
朝日新聞科学部記者⇒論説委員⇒阪大大学院ボランティア人間科学講座
⇒国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野
ゆき さん

フィンランド発オープンダイアログ
英語でなくフィンランド語で話していただいていた「真髓」
「本人にいないところで、その人について、そして、
診断や処方をしていないことを決めた、あの日のこと」



(神保康子さん撮影)

ところが、この日本では、「対話」どころか(/o\))。。



「閉じ込めた患者のそばにポテトチップスを置き、
手を伸ばす姿を見て面白い」



<https://this.kiji.is/675682434193556577?c=39546741839462401>



(アップロードしたのは、総理夫人の実弟)

この精神科病院など5800ベッドの病院チェーン
の総帥は、安倍総理から「やぶちゃん」
とよばれることが自慢。

フィンランドとつないで オープンダイアログみいーていんぐ 9月13日(日) Kari Valtanen Mia Kurtti





対話の要素

Kauko Haarakangas

1. どんなことを話しても安全です。それが難しい事柄であっても。
2. 自分自身を表現してよいのです。—どのような意見や感情でも受け入れられます。
3. 話を聞いてもらえる権利と機会は、誰にでもあります。
4. すべての人と声に優劣はありません。
5. その人が何を言いたいと思っているかに耳を傾けたい。



対話の要素

Kauko Haarakangas

6. 自分自身の視点を進んでふりかえり、疑い、変えていく。
7. 明確にわからなくてもよいのです。絶対的な「真実」を知っている人は誰もいません。
8. 協働しながらじっくり考え、共有する。
9. 本来の自分でいてもよい。
10. 自分にも他者にも責任をもつ。

ただいま準備中の えにし会の裏方文化の始まりは



ゆきこさん退官記念＋“えにし in 逢坂”のご案内

寒い日が続いておりますが、皆さまどないしてはりますか？
さて、このたび2004年3月をもちまして、大熊由紀子教授「ゆきこさん」が大阪大学を退官しはることになりました(涙)・・

お名残は尽きへんけど、在学生を中心に、ゆきこさんの退官記念を企画しよう！ということになりました

ほんで、ゆきこさんのご意向もあって、最終講義だけやのうて、毎年東京で開催される“えにしを結ぶ会”の“逢坂”版もやろうやないかという事になったんですわ

せやから、豪華なゲストの方々のお話も聞けまっせ！（略）お忙しいところ恐縮ですが、何がなんでも何がなんでも来てくれはったらうれいいます。内容盛りだくさん、来な損しまっせ！どうぞよろしゅうに・・

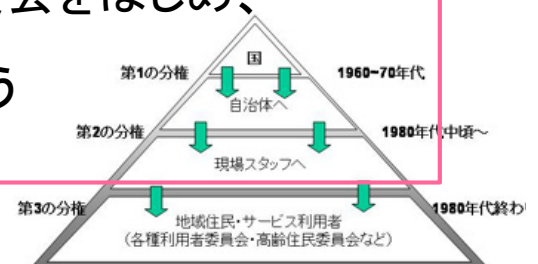
会費：1000円（お茶代、おもしろいお得な資料代）

一連の動きは、はからずも、大学院生、福島容子さんが修士論文で紹介した「デンマークの3つの分権化理論」の再現実験になっていました。

デンマークでは1960年代から70年代にかけて、国が万事きめるのではなく「自治体に権限と責任を移す」という第1の分権が行われ、土地柄にあわせたきめ細かな行政が行われるようになりました。

1980年代中頃には、「現場スタッフに権限をおろす」という第2の分権が行われました。現場の創意工夫が生かされるので、スタッフは生き生きとし、小回りの利いた予算の使い方ができるようになりました。

1980年代の終わりになると、分権化はさらに進み、高齢住民委員会や障害当事者委員会をはじめ、様々な利用者委員会が作られて、「当事者本人の提言を生かす」という第3の分権が実現しました。



Claus, B. O. "Dagtilbud til børn i lokalsamfundsperspektiv"をもとに作

福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会
80のシキタリ

- a
- その1 席は、**籤引き**。恋が偶然の機会から生まれるように
 - その2 **パソコン文字通訳、手話、磁気テープ、指点字**を用意
 - その3 毎回、**news**が潜んでいます
 - その4 どんなに高名な方でも、**講演料ナシ**。それは、“権利”なのだという理屈から
 - その5 登壇は「権利」なので、「**一生に一度**」だけ。
 - その6 **モットーは前例を破ること**。〇〇先生、〇〇局長という上下っぽい呼びかけをやめ
カラちゃん、サルちゃんと呼び合って、始まる前から水平の関係が
 - その7 **縁の下の力持ち 資料配布ボラ 袋詰めボラ**
満員御礼判定 & 「えにし結び名簿」ボラ
映像配信ボラ プログラムづくりボラ 売り子担当ボラ
受付・ご案内担当ボラ 幹事長・事務局長ボラetc. etc.



ことは、9月26日、えにし2020

<http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-00.html>

この日は、鳥取県知事の指導で手話で「アイラブユー」



由紀子さんの旅立ちをお祝いし、新たな縁を結ぶ会

2001.5.12 プレスセンターホール

呼びかけ人

(当事者ネットワーク)

池田省三(介護の社会を進める一万人市民委員会)
勝村久司(医療情報の公開・開示を求める市民の会)
川内美彦(障害をもつ人の権利リーガルアドボカシー)
見坊和雄(老いを共に楽しむネットワーク)
佐々木信行(ビープルファーストを(は)なしかあう会)
佐藤さきよ(ベンチレーター使用者ネットワーク)
高岡正(全日本難聴者・中途失聴者団体連合会)
田中徹二(障害分野NGO連絡会)
多田富子(さくら会)
芳賀優子(弱視者問題研究会)
樋口恵子(高齢社会をよとする女性の会)
樋口恵子(全国自立生活センター協議会・JIL)
山崎多美子(全国精神障害者団体連合会・ぜんせいねん)
山田昭義(障害者インテリゲンシャルDPI)
渡辺啓二(ジョイントプロジェクト)

(支援ネットワーク)

池田昌弘(宅老所・グループホーム全国ネットワーク)
伊藤哲寛(精神医療をよとする市民ネットワーク)
北岡賢剛(全国地域生活支援ネットワーク)
熊谷崇(日本ヘルスケア歯科研究会)
小村洋二(患者の権利法をつくる会)
菅原弘子(福祉自治体ユニット)
高橋儀平(福祉のまちづくり研究会)
高見国生(呆け老人をかかえる家族の会)
坪井栄孝(女性・こども・命・未来を守る会)
藤井英徳(共同作業所全国連絡会)
藤田康幸(医療改善ネットワーク)
別府宏樹(正しい治療と薬の情報)
星川安之(特用品を広めるネットワーク)
山岡義典(日本NPOセンター)
リャン・スンチ(日本ホスピス・在宅ケア研究会)

(自治体)

浅野史郎・宮城県知事
岩川 徹・鹿野町長
國松善次・滋賀県知事
坂本祐之輔・東松山市長
潮谷義子・熊本県知事
福田昭夫・栃木県知事
光武 顕・佐世保市長
森 直述・高浜市長

(厚生行政)

伊藤雅治・医政局長
篠崎英夫・健康局長
今田寛睦・障害保健福祉部長
堤修三・老健局長
大塚義治・保健局長
辻哲夫・年金局長
中村秀一・審議官(医療保険担当)
河幹夫・参事官(社会保障担当)
山崎史郎・老健局計画課長
香取照幸・内閣府参事官(社会システム担当)

(朝日新聞社)

佐々木俊郎(論説主幹)
田辺功(編集委員)
内山幸男(科学部長)
石井敏男(社会部長)
吉田慎一(くらし編集長)
川名紀美(論説委員)
伊中義明(論説委員)
浜田秀夫(論説委員)
高橋真理子(論説委員)
和田公一(社会部)

福祉と医療・現場と政策を隔てる
深くて広い河に橋を架け
絆を結ぶために



ことしは「3密」をさけてスームで
シンポと「縁結び」という冒険



「あらたなえにし」を結ぶために
不可欠な情報保障

パソコン文字通訳

指点字

いつもの年の風景は



ことしの登壇者 自立生活センター東大和理事長

海老原宏美さん 脊髄性筋萎縮症

「日本ALS協会前会長の岡部宏生さんのadviceで
胃瘻をつけたら、命の危機を脱し食欲も回復。
口から食べられるようになりました」

★★この話を聞いて、岡部さんに私から送ったメール

岡部さんのご助言に励まされて、えびちゃんは胃瘻に踏み切ったそうですね。
それは、彼女にとって素晴らしい結果に。
やせ細っていた体が元に戻り、食欲がでてきて口からも食べられるように
「岡部さんのお家でサーロインステーキをご馳走になって幸せだった」
そう、えびちゃんはいっていました。

友人が美味しそうに食べている様子を見ることって、
胃瘻の岡部さんにとっても幸せなのではないでしょうか？」



★★翌朝起きたら、以下のメールが届いていました。

文字盤で目で見えてくださったものです。

「はい、私は好きな人たちが美味しそうに食べていると半分自分が食べている気持ちになります。

なので、食材の買い物からレシピも自分で考えます。

ALSの患者仲間には2つのタイプがいます。

介護者や友人が食べているのを一緒に楽しむタイプと、

人が食べているのは絶対見たくないというタイプです。

私は前者で良かったと思っています。」



「宏美さんと同じセッション
介護保険を超えて」に登壇の
保坂展人世田谷区長は。

世田谷区の認知症条例案の骨子

※世田谷区の資料などから作成

区の責務

常に本人の視点に立
ち、本人や家族の意見
を聴き施策を実施する

事業者の役割

本人に配慮したサー
ビス提供と地域との
協働に努める

認知症の本人 家族

地域団体の役割

本人や家族が体験した情報
を自ら発信できる交流の場
づくりに取り組むよう努める

医療・介護事業者の役割

住み慣れた地域で適切な
医療や介護などの支援を
提供できるよう努める

区民の参加

サポーターというよ
り認知症の本人と共
に歩むパートナーと
いう意識を持つ

ところが、**条例の思想に反するリーフレット**→
 が配られそうになって、この月曜日には大騒動。
 絵を入れてルビをふれば「わかりやすい」という大きな誤解
 次回の岩田一成先生のお話は
 「ほんとうの分かりやすさ」について。
 聴講生のおひとりと、武田裕子教授も飛び入りで。

認知症とは

認知症とは、様々な原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりするために起こる脳の病気によるものです。年を取ることで体験の一部を忘れる「ものの忘れ」とは異なり、体験したことの全てを忘れてしまうことで、様々な生活のしづらさが出てきます。

年を取ることによる「ものの忘れ」

- 体験や出来事の一部を忘れるが、ヒント等があれば忘れた部分を思い出すことができる。
- もの忘れをしている自覚がある。
- 人物や時間・場所までわからなくなることはない。

認知症の「ものの忘れ」

- 体験や出来事の全てを忘れてしまうため、ヒント等があっても思い出すことができない。
- 新しいことが覚えられず、もの忘れの自覚がない。
- 人物や時間・場所までわからなくなることがある。

でも、何もわからなくなるわけではありません。
 皆さんと同じく、「嬉しい」「悲しい」という感情は保たれています。

認知症の人への接し方で大事なこと

「3つのない」

- おどろかせない
- いそがせない
- 相手がいやだと思うことを言わない

たとえば

こんなときは どうな

まちの中で

近所のおじいさんが、困った様子で道を歩いたり、果たりしてるとき

「おじいさん、道に迷っているのかな？」

お店で

小銭で足りるお会計のときに、不安そうに小銭で一杯のお財布から1万円札で払おうとしているとき

「お会計は450円です。」

ユニバーサルデザインに手助けや心づかいのヒント
 世田谷区都市デザイン課
 <電話>03-5432-2038

春学期でご紹介した 前例を超える グラフ入り社説

駆けつけた勝村久司さんに主治医はいった。
 「赤ちゃんはたぶんダメでしょう。奥さんの方は2、3日が峠でしょう」

理栄さんは何日も死線をさまよった末、命はとりとめたが、星子ちゃんと名付けられた赤ちゃんは、わずか9日間、保育器の中で生きてただけで亡くなった。

なぜ、こんなことに？

高校の理科の教師である久司さんは、その謎をつきとめようと決心した。

まず、分かったのが、「子宮口を柔らかくするお薬」の正体だった。

日本の日別全出生数
 (1996年12月16日～1997年1月15日)

日付と曜日	出生数 (人)
16 月 水	3669
17 日 木	3669
18 月 金	3669
19 日 土	3669
20 月 日	3669
21 日 月	2539
22 月 火	2539
23 日 水	2539
24 月 木	4146
25 日 金	4146
26 月 土	4146
27 日 日	2482
28 月 月	2482
29 日 火	2482
30 月 水	2377
31 日 木	2377
1 月 金	2793
2 日 土	2793
3 日 日	2793
4 月 月	2793
5 日 火	3793
6 月 水	3793
7 日 木	3793
8 月 金	3793
9 日 土	3793
10 月 日	3793
11 日 月	2608
12 月 火	2608
13 日 水	2608
14 月 木	3640
15 日 金	2762

天文学が専門の高校の先生、勝村久司さんが 9月12日に記者会見
以下は、NHKのnewsから(背景の詳細はPDFを)

患者が死亡する医療事故が起きたときに、医療機関みずから原因を調査し、第三者機関に報告する「医療事故調査制度」ができてまもなく5年となります。これを前に、医療事故の遺族らでつくる団体が調査が適切に行われていないケースがあるとして、運用の改善を求める要望書を厚生労働省に提出しました。



「医療事故調査制度」は、すべての医療機関を対象に医療事故で患者が死亡した場合、原因を調査することや、第三者機関の「医療事故調査・支援センター」に報告することなどを義務づけています。

制度の運用開始から10月1日で5年となるのを前に、11日、医療事故の遺族などで作る団体が厚労省を訪れ、制度の改善を求める要望書を担当者に手渡しました。

ゆき. えにしネット

福祉と医療、現場と政策をつなぐホームページ



窓から手を振る患者さん



家族・友人との面会室

医療(medical)

インフォームド・コンセントの部屋



高校のクラスメイト
千葉敦子から学んだ3つのこと

東海道中くきこけたー5月12日(土)
九鬼伸夫さん

診療を終えて、朝日新聞の先輩大熊由紀子さんの定年・阪大教授就任記念パーティーに駆けつける。四百人の大盛会。大熊さんは、日本で初めて(略)

今日初めて知ったことだが、乳癌と闘いニューヨークで死んだ故千葉敦子さんと大熊さんは、高校時代からの友人だった。

千葉さんが、もう最期という帰国の時に、長く会っていなかった女友達十数人を中華料理店に集めて会を催した。

そこでできた人のつながり、ネットワークは今も生きている。

大熊さんは、自分は今すぐ死ぬわけではないけれど、朝日新聞という場を失うに当たって、千葉さんがしたように、新たな人のつながりのきっかけを作りたいかった。そんな話しをした。

本当に、ただのパーティーではなくて、大熊さんとはつながっているけれど、その場では初めて、という多くの人がこれから実りあるネットワークを作るきっかけになるような配慮が本気でいっぱいだった。すごいと思う。ジャーナリストにとって、人とのつながりは、最大の財産だ。(略)

「過激な長老」日野原重明さん 長生きすれば、いつのまにか「ふつうに」



「医師が高血圧と診断して薬を飲ませている人の3分の1は『薬で体を悪くされている人』、次の3分の1は『薬不要の人』、残りが『薬を飲む必要があるかもしれない人』です」
いまでこそ、少なからぬ専門家が口にするのですが、当時は、こんなことをいう勇気のある人はいなかったのです。

タブーへの挑戦で特筆すべきは、「患者が参画する医療」に道を開いたことです。
家庭で血圧を測るのはいまでは当たり前になっていますが、かつては医師の専売特許でした。
血圧を測るのに不可欠だった聴診器が医者のものでされていたからです。看護婦や保健婦でさえ血圧を測ることができなかったのです。
ところが、医師が測ると170もあって降圧剤を飲んでいて患者が、家で測ると110くらいしかなく、薬を飲む必要がないという例がいくつもありました。血圧を自己測定できれば、自分の体をよく知り、健康の自主管理ができるようになると考えた日野原さんは、「医者よ、聴診器を手放そう。国民は血圧を自分で測ろう」と呼びかけました。30年前のことです。医師会を敵に回す、当時としては実に過激な行動でした。

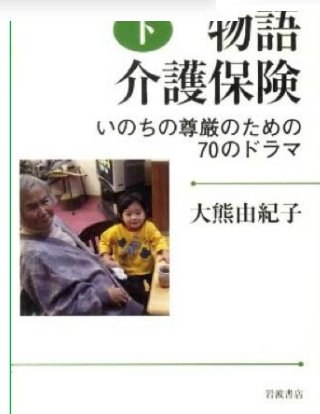
「医者が独占していた医療を周辺技術者や患者に解放することで患者への情報公開が進み、従来の医療や医者のあり方に再考を促す。患者志向の医療システムを作っていくうえでの第一歩になると考えたのです」
日野原さんは、確信犯でした。
80年代のはじめには、健康教育を受けたボランティアをリーダーに、血圧の測り方などを住民に広め始めました。成人病を「生活習慣病」に改めるべきだと提案しました。「成人病」というよりも自己管理の動機づけになるからという深謀遠慮からでした。

看護婦さんの地位を高めて医師のパートナーにするために奔走もしました。日本では、医師たちが看護婦さんを家来のようにあつかう風潮が長く続いてきました。日野原さんはこれに猛然と反旗を翻し、看護の大学や大学院を創設し、博士課程までつくったのです。

これも、日本の医師文化に逆らう、実に過激な行動でした。

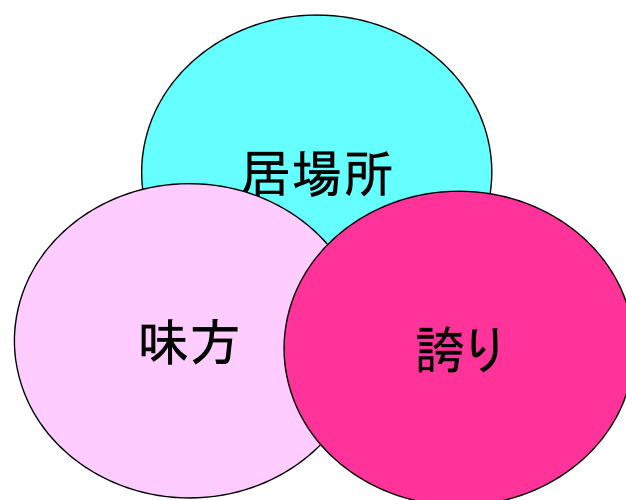
『恋するようにボランティアを』より

★★レポート当選作には、以下の著書をプレゼント★★



前例を超える・前例を創る

言葉は魔術・言葉は思想・言葉で変える



北欧・日本のあちこち、
そして母を看取って気づいた人生に大切な3つのこと